

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 9 月 19 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/19 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	32.5	106.7 kPa abs	A系： 0.02 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	43.4	4.77 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	42.8	0.22 kPa g	A系： 0.11 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.11 vol%

*1: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/19 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	27.5
2号機	循環冷却システム	運転中	24.4
3号機	循環冷却システム	運転中	24.1
4号機	循環冷却システム	運転中	34

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/17 10:37 ~ 移送実施中
6号機	6号機 タービン建屋	仮設タンク	9/19 10:00 ~ 15:00 移送実施

7/16 13:00 ~ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエリアタンクへ移送を開始。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (9/19 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみ て断続運転	水バランスをみ て断続運転	停止中

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/8/8 12:55 ~ 6/15 に多核種除去設備 A 系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在 A 系で実施している腐食防止対策を B 系でも実施するため、同設備 B 系を停止。
再発防止対策を実施した上で、C 系 9 月下旬、A 系 10 月中旬、B 系 11 月以降を目処にホット試験を再開予定。

・H25/9/19 ~ 多核種除去設備 C 系において、コールド試験に向けた系統水張りを開始。

・H25/9/12 ~ 9/24(予定) セシウム吸着装置において、処理水タンクの腐食防止のための信頼性向上工事を実施中。

< 5. その他 >

- ・H25/9/18 1、2号機排気筒耐震安全性評価のために現場調査を行っていたが、当該排気筒の鋼材(斜材)に破断や破断らしき箇所、さびなどの損傷があることを確認。当該排気筒エリアには高線量率箇所があることから、今後、詳細調査方法等の検討を行ったうえで調査を開始する予定。なお、当該排気筒は、現在使用しておりません。また、プラントデータ(原子炉圧力容器底部温度、格納容器内温度等)の異常、モニタリングポスト指示値に有意な変動は確認されていない。当該排気筒は筒身と主材は健全と考えているが、念のため、簡易的な耐震安全性評価を行い、評価結果より倒壊する恐れがないことを確認。簡易的な耐震安全性評価を行っている期間において、当該排気筒の高さと同程度の半径120m区域内の作業禁止区域としていたが、9/19 10:14 解除。
なお、当該排気筒より半径28m区域内については、部品落下を考慮し、作業禁止を継続。
- ・H25/9/19 1号機原子炉建屋機器ハッチ周りの建屋躯体調査を予定していたが、1、2号機排気筒周囲の作業禁止の影響により延期。
- ・H25/9/19 9:10 頃 福島第一原子力発電所1号機海側4m盤のポンプ室南側付近の消火配管をガレキ撤去作業中に誤って切断し、配管から水が漏れ出したことを協力企業の作業員が発見。配管の上流側の弁を閉じたことにより、水は止まっている。なお、漏れ出した水の表面線量率は300~700 μ Sv/hでバックグラウンドと同等。その後、現場で調査したところ、漏れい量は約300リットルと推定。配管から漏れた水はろ過水(淡水)であり、外部への影響を与えるものではない。
- ・H25/9/19 建屋周辺地下水観測井4R 1について9/18採取した水の分析を実施。
- ・H25/9/20~ 2号機サブプレッションチェンバ(S/C)内の水位測定についてロボットによる実証試験を開始予定(9/19から予定変更)。

【H4エリアタンクからの水の漏れい関連】

<トピックス>

- ・9/13~16 漏れいの確認されたH4エリア グループNo.5タンクを解体、調査するため、作業エリアを確保する観点から、先行してH4エリア グループNo.10タンクを解体。
- 9/17~18 漏れいの確認されたH4エリア グループNo.5タンクについてタンク底板部および側板1段目を除き解体。
- ・9/19 地下バイパス揚水井(No.5,6)について、9/17採取分からサンプリングを開始。

<最新のパトロール実績(9/18)>

- ・高線量当量率箇所(+線(70 μ m線量当量率))は確認されず。
- ・目視点検によりタンク全数に漏れい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏れいを除く)を確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・E-1観測孔:9/17採取のトリチウム分析結果は58,000Bq/Lであり、9/16採取時の値(95,000Bq/L)と比べ、低下。
- ・E-3:H4エリア周辺の新規観測孔(E-3)でサンプリングを開始。

<排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・有意な変動なし。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1、2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は9/19 0:00時点で約2,095m³
*集水ピット(南)およびウェルポイントの総量
- ・H25/9/19 2号機分岐トレンチ(立坑Bおよび電源ケーブルトレンチ)閉塞完了。

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・有意な変動なし。

【地下貯水槽からの漏れいに関する情報および作業実績】

- ・H25/7/1~ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中(有意な変動なし)。
- ・H25/9/13~ 地下貯水槽No.2については、現状浮き上がりは確認されていないが、浮き上がりの可能性があるため、防止策として砕石盛土を実施中。
- ・H25/9/17~ 地下貯水槽No.3の浮き上がり対策として、砕石盛土を実施中。なお、砕石盛土にあわせて、南西側ドレン孔からの地下水の排水を適宜実施。

以上